

SSH&国際探究ニュース

SSH & Global Education Reports

東大駒場リサーチキャンパス公開2026に行ってきました!

6月5日(金)に2年生のSSII講座の履修者で東大駒場リサーチキャンパス公開2026に参加しました。本記事では現地へ行ったSSIIの声をご紹介します!

東大駒場リサーチキャンパス公開とは?

生産技術研究所がある東京大学駒場リサーチキャンパス最大のイベントで、毎年お隣の先端科学技術研究センターの研究者による講演会や関連企業・研究室の成果発表などが行われます。



図1 研究所の銀杏並木



図2 岡部研究室に並んだ元素

私の見学させていただいた岡部研究室の研究内容は効率的なチタンの精錬方法で、チタンの精錬の際の酸素含有率を制御できる精錬方法の開発に取り組まれていました。私はチタンに関する研究を行っているため、自身の研究にも活きる知見を深める良い機会となりました。研究室ではたくさんの元素が机の上に並んでおり(図2)、圧倒されました。自分が間近で見たことのない単体のハフニウム(Hf)やジスプロシウム(Dy)を拝見しました。教科書で学ぶ体験とは全く異なる、目の前にある元素の迫力を肌で感じる事ができる貴重な体験となりました。

また、今回の研究所見学では自身の関心の薄かった、建築系の分野の研究も拝見することができました。研究員の方のわかりやすく丁寧な説明を聞くうちに、建築の持つ魅力に引き込まれていきました。建築について、これまでの自分にはない、全く新しい視点を持つことができました。AIや

ITなどの技術が発達する中、現実の研究施設で研究発表が行われ、さまざまな経歴を持つ人々が分野の垣根を超え、一堂に会するというのは大変有意義な機会だと思います。この度は貴重な体験をさせていただきありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

建築からナノ粒子の世界まで幅広い分野の最新研究を見学し、大変有意義な時間となりました。ポスターの撮影が制限されるほどの最先端の研究について直接お話を伺うことができ、普段は知ることのできない研究の世界に触れられたことに胸が高鳴りました。また、大学の研究機器を実際に操作したり、演示実験を見学したりと、大学の研究施設ならではの貴重な体験を数多くさせていただきました。

私は特に、ヨウ化銅を量子サイズで扱う研究室の企画が印象に残っています(図3)。ナノスケールの研究ができることや、同じ物質でも結晶構造や粒子の周りにつくものの違いによってブラックライト照射時の発光色が変化することに驚き、強い興味を持ちました。また、多くの研究室で発表を拝見し、分かりやすいポスターのイラストや、難しい内容をかみ砕いて伝える工夫に感銘を受けました。今回の見学を通して工学分野への関心が今まで以上に高まりました。今回受けた刺激を生かして、自分の研究への理解をさらに深め、より良い発表ができるよう努力したいと思います。貴重な経験をありがとうございました。



図3 ヨウ化銅クラスターが光る様子

(文責 2年 HS・YM)